

原子番号	元素記号	元素名	元素と切手について	選ばれた1切手	切手データ (発行国、発行年、説明、 画像縮小率など)
56	Ba	バリウム barium	重晶石 (BaSO_4) が自然界の主なバリウム源。主な用途は石油や天然ガス掘削時に使用する掘削泥水。掘削井と地上を循環させ、比重が大きいことを利用して坑底から堀屑を地上に運び出す。胃のレントゲン検査用造影剤、俗称バリウムは硫酸バリウムのスラリー。バリウムとニッケルの合金は自動車の点火装置に使われる。		ルーマニア 2010 重晶石 BaSO_4 53%
57	La	ランタン lanthanum	ランタノイド系のリーダー格ながら発見は58番元素セリウムの発見から30年以上後れた。長く陰に隠れていたことからギリシャ語の隠れる (lanthanein) に因んで命名された。発火合金 (La-Fe、ライター用)、高屈折ガラス (酸化ランタン)、水素吸蔵合金 (燃料電池用) など用途が多岐にわたる貴重な希土類元素。		日本 1953 東京天文台75年 69%
58	Ce	セリウム cerium	1803年、ランタノイド系元素として最初に発見された。ガラス研磨材、排ガス浄化用触媒、ライターの発火石等、多機能を持った希土類元素。特に紫外線の吸収性が優れ、サングラス分野に多く利用されている。元素名は1801年に発見された準惑星Ceresに因んで命名。セレスはローマ神話の豊穣の女神。		スイス 2017 絵文字 サングラス 68%
59	Pr	プラセオジム praseodymium	58番元素セリウムの微量成分として約80年後ウェルスバッハが単離に成功した。陶磁器の釉薬 (黄緑色顔料)、溶接用のゴーグル等に利用。名前は結晶が薄い緑色を呈することからギリシャ語の緑色 (prasios) と、隣のNdと同時の双子 (didymum) に由来。アルファベットで表記した Praseodymium は12文字で英文元素名では最長。		オーストリア 2012 ウェルスバッハ 40%
60	Nd	ネオジム neodymium	1885年、ウェルスバッハが59番元素プラセオジムと同時に発見した。ギリシャ語の新しい (neos) と双子 (didymos) を組み合せて名付けられた。最強の永久磁石の素になった希土類元素で、ハードディスク、ハイブリット車のモーター、医療機器のMRI、携帯電話の部品など多くの分野で使われている。		日本 2017 双子座 星の物語 完結編より 61%
61	Pm	プロメチウム promethium	ギリシャ神話の天上から火を盗んで人類に与えたプロメテウスに因んで名付けられた。原子炉内のウラン核分裂生成物を陽イオン交換クロマトグラフィーという新手法で1947年に発見された。原子炉が新しい火元となったというわけである。アポロ宇宙船の電源等、無人宇宙探査機用の原子力電池に利用されている。		ギリシャ 1960 58%
62	Sm	サマリウム samarium	元素名はサマルスキー石からの発見による。サマリウムコバルト磁石は強力で耐熱性に優れ、広い用途で使用されている。サマリウム-ネオジム法は地質年代測定法の一つであり、アメリカのアポロ計画で月から持ち帰った月の石の年代測定にも用いられた。		アメリカ 1969 34%
63	Eu	ユウロピウム europium	1901年、フランスのドマルセーがバストネス石 (重い石) 由来のサマリウムから分離した。ヨーロッパ大陸に因んで名付けられた。蛍光性の元素で、プラウン管や蛍光灯の蛍光体、紙幣の偽造防止用の蛍光インク、生化学実験用の蛍光試薬などに使われる。		フランス 2005 58%
64	Gd	ガドリニウム gadolinium	ヨハン・ガドリンは39番元素イットリウムの発見者 (1794年)。スウェーデンのイッテルビー村の黒い石 (ガドリン石) は彼の発見後も研究が続き多くの希土類元素が次々に発見された。バストネス村の重い石も同様に研究され、1910年までに合計16個発見。1880年発見の64番元素名は先駆者ガドリンに因む。		フィンランド 1960 ヨハン・ガドリン 53%
65	Tb	テルビウム terbium	磁気によって伸び縮みする「磁気ひずみ」や、鉄やコバルトとの合金化により磁気消失温度 (キュリー温度) が大きく変化する現象 (テルビウム単体の -52°C が $+180^\circ\text{C}$ にも) など、特異な磁性挙動を示す元素である。「磁気ひずみ」はプリンタの印字ヘッドに、可変キュリー温度現象は光磁気ディスクに利用された。		ブルガリア 1989 電子機器(上半分にプリンタ、下の男性は特に関係ない) 35%
66	Dy	ジスプロジウム dysprosium	発見者は単離に大変苦労したため (分別再沈を20回以上繰り返した)、ギリシャ語の近づき難い (dysprositos) に因んで命名。光を蓄える特性があり、蓄光性物質や夜光塗料に利用される。ネオジム磁石に添加するとキュリー温度が上がり (300°C) 耐熱性が増大。ハイテク機器に欠かせない。脱Dy技術開発も急がれている。		ロシア(ソ連) 1991 チエルノブイリ原発事故 5年 59%